

故に坑夫階級は最初、都市労働者と異りたる運動方法を採用せねばならない。吾人は次に坑夫の特質を三に分ちて論ずる。

## 一 第一の特色——長き歴史

我國に於て都市の工業は明治に至つて初めて外國から輸入されたものである。従つて都市労働者は成立が若いのである。然るに鑛山業は古くより發達して居た徳川時代では尾尾、秋田、生野等の探掘が盛に行はれ銀や銅は貿易品として重要なものであつた。故に坑夫といふ階級も久しい以前から成立してゐた。従つて坑夫の間には種々の習慣が歴史的に發達してゐるのである。飯場制度は原始的の労働組合である。大當番制度は自治の精神の表はれである。山中箱元制度は相互扶助の完全なものである。奉願帳制度は労働保險の作用をするものである。浪人制度は全國坑夫が一體であるといふ思想の表現である。以上の如き歴史的習慣は立

派なるものであつて、斯くの如きは都市の労働者に絶えて見られぬ處である。

## 三 第二の特色——重要な産業に

### 従事し且つ其數多し

坑夫は重要な産業に従事するものである。坑夫は原料品たる金銀銅鐵を地下數千尺の下より掘り出し、また諸工業の燃料として缺くべからざる石炭を生産する。また數に於ても非常に大きい。我國の労働者は總數二百萬内外であるが、其うち鑛山労働者は六十萬人もあり、純粹の坑夫と呼ばれてゐるものは三十萬人もあるのである。鑛山労働者の次に多いのが製絲女工の五十萬人であるが、これは女子であつて常に瓦斯の爆發や落盤等の事故と戦つて勇敢に労働する坑夫とは比べることは出來ぬ。つまり坑夫は其労働の性質に於ても其數に於ても全労働者の先驅となつて模範的な労働運動をする使命を有するのである。